

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	宅地建物取引士対策授業	
実務経験	税理士事務所を経営し各企業への経営コンサルタント業務を行っている。	
対象学生	総合ビジネス科2年	
授業時間数・単位数	37コマ・2単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	宅地建物取引士試験に向けて、権利、宅建業法、法令、税制などについて学ぶ	
授業の到達目標	宅地建物取引士資格試験の合格を目標とする。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。試験結果、出席率等を総合的に判断して評価	
準備学習・時間外学習	過去問題を利用し、理解の確認に努めること。	
使用教科書・教材・参考書	宅建学院 2022年度版 らくらく宅建塾 他	
授業上の注意点	FP3級授業を修了し、資格所得していることが望ましい	
授業計画（内容）	コマ数	
宅地建物取引権利関係		6
宅地建物取引業法		6
宅地建物取引関係法令		6
宅地建物関係税法		7
試験対策まとめ		12
合計		37
	授業単位数	2

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	所得税法	
実務経験	税理士事務所を経営し各企業への経営コンサルタント業務を行っている。	
対象学生	総合ビジネス科2年	
授業時間数・単位数	15コマ ・ 1単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	所得税の概要、計算方法、申告、納付等について学ぶ	
授業の到達目標	所得税のしくみ、計算方法、申告、納付について理解する。所得税法能力検定試験3級の合格を目指す	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。試験結果、出席率等を総合的に判断して評価	
準備学習・時間外学習	授業で行った例題を復習し、トレーニング問題で理解を深めること。	
使用教科書・教材・参考書	栄光社 所得税法テキスト 過去問題集	
授業上の注意点	簿記3級及びFP3級を取得していること	
授業計画（内容）		コマ数
所得税の概要		2
所得の内容とその計算方法 1 利子所得 配当所得 不動産所得		1
所得の内容とその計算方法 2 事業所得		1
所得の内用とその計算方法 3 給与所得 退職所得		1
所得の内容とその計算方法 4 山林所得 譲渡所得 一時所得 雑所得		1
課税標準		1
所得控除と課税総所得金額		1
所得税額の計算		1
所得税の申告・納付等の手続き、復興特別所得税		1
問題演習		5
合計		15
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	商業簿記基礎	
実務経験	税理士事務所を経営し各企業への経営コンサルタント業務を行っている。	
対象学生	総合ビジネス科1年/総合ビジネス科2年/ビジネス専攻科1年/情報システム科2年	
授業時間数・単位数	60コマ ・ 4単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	小規模な株式会社が営む商品売買業を前提とする商業簿記の基礎を学習する。	
授業の到達目標	商業簿記の基礎を理解し、日常取引の仕訳ができる。また、各種帳票の記入および財務諸表の作成ができる。日商簿記検定3級の合格。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。試験結果、出席率等を総合的に判断して評価	
準備学習・時間外学習	授業で行った例題を復習し、トレーニング問題で理解を深めること。	
使用教科書・教材・参考書	ネットスクール 日商簿記3級にとおるテキスト、日商簿記3級とおるトレーニングだれでも解ける過去問題集	
授業上の注意点	欠席しないこと。	
授業計画（内容）		コマ数
簿記の基礎		2
日常の手続き		1
商品売買		3
現金・預金・小口現金		2
クレジット売掛金		1
手形取引		1
さまざまな帳簿の関係		1
電子記録債権・債務		1
その他の取引		3
試算表		5
決算		1
決算整理		10
精算表		2
帳簿の締め切り		2
損益計算書と貸借対照表		1
株式の発行・剰余金の配当と処分		1
税金		1
証ひょうと伝票		2
問題演習		10
模擬試験		10
合計		60
授業単位数		4

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	商業簿記応用	
実務経験	税理士事務所を経営し各企業への経営コンサルタント業務を行っている。	
対象学生	総合ビジネス科1年/総合ビジネス科2年/ビジネス専攻科1年/情報システム科2年	
授業時間数・単位数	52コマ ・ 4単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	中規模株式会社が営む商品売買業、サービス業等の会計処理を学ぶ。	
授業の到達目標	中規模株式会社の会計知識を習得し、日商簿記2級の合格を目指す。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。試験結果、出席率等を総合的に判断して評価	
準備学習・時間外学習	授業で行った例題を復習し、トレーニング問題で理解を深めること。	
使用教科書・教材・参考書	ネットスクール 日商簿記2級におけるテキスト商業簿記、日商簿記2級とおるトレーニング商業簿記 だれでも解ける過去問題集	
授業上の注意点	工業簿記と並行して進めるため、偏りなく習得するよう努力すること。	
	授業計画（内容）	コマ数
	簿記一巡の手続き、損益計算書と貸借対照表	1
	商品売買	1
	現金および預金	1
	債権・債務	1
	有価証券	1
	有形固定資産（Ⅰ）	1
	有形固定資産（Ⅱ）	1
	リース取引	1
	無形固定資産等と研究開発費	1
	引当金	1
	外貨換算会計	1
	税金	1
	株式の発行	2
	剰余金の配当と処分	2
	決算手続	4
	収益・費用の認識基準	1
	課税所得の算定と税効果会計	3
	本支店会計	2
	合併と事業譲渡	2
	連結会計Ⅰ（資本連結Ⅰ）	2
	連結会計Ⅱ（資本連結Ⅱ）	2
	連結会計Ⅲ（成果連結）	2
	問題演習	20
	合計	52
	授業単位数	4